

第3章 基礎調査結果

第3章 基礎調査

1 各種調査概要

(1) 関係事業者へのヒアリング調査実施概要

町民の移動実態、公共交通の利用実態やニーズ等を把握するためのアンケート調査を実施した。調査は、①町民アンケート調査、②高齢者アンケート調査、③高校生アンケート調査の3種類を下表のとおり実施した。

▼各種アンケート調査概要

調査名	対象	調査方法	配布数	回収数	回収率
①町民アンケート調査	19歳以上～65歳未満の町民	・郵送による配布・回収 (Web回答可能)	1,000票	389票	39%
②高齢者アンケート調査	65歳以上の町民	・老人クラブや民生委員の協力による直接配布・郵送回収	約650票	460票	71%
③高校生アンケート調査	波佐見町在住の高校生、町内の高校に通学する高校生	・学校による直接配布・回収 (Web回答可能)	278票	278票	100%

(2) 関係事業者へのヒアリング調査実施概要

公共交通の運行に係る事業者、町民の日常生活の主要目的地となっている施設の管理者、公共交通の運行に関係する事業者を中心に、下表のとおり個別にヒアリング調査を行った。

▼ヒアリング調査概要

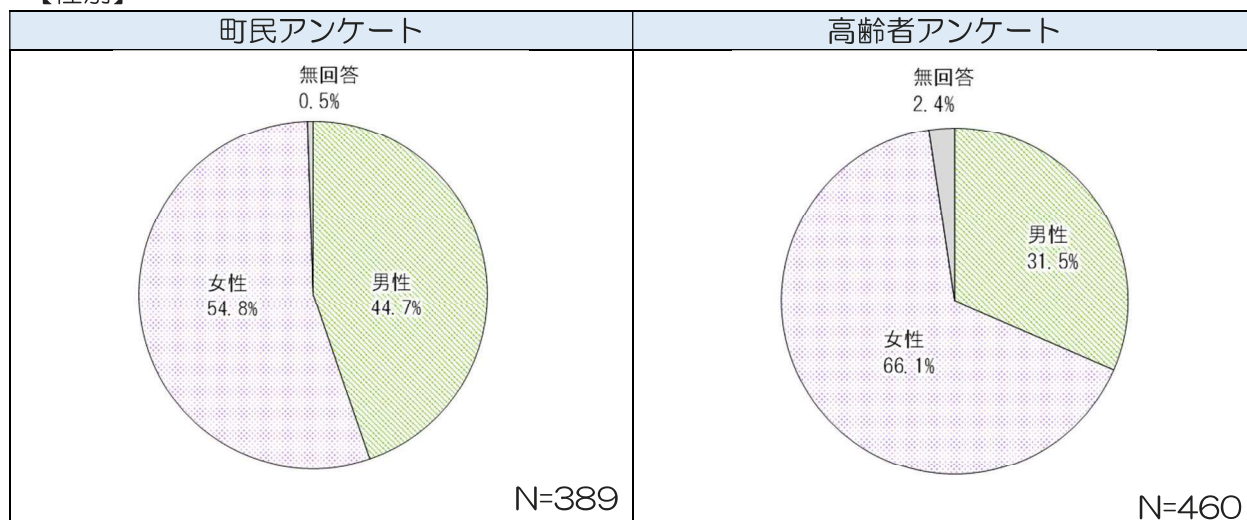
区分	事業者名	7月	8月	9月	10月	主なヒアリング項目
バス事業者	西肥自動車					①運行の状況 ②懸念される事項 ③利用促進策
予約制乗合タクシー	相互タクシー マユミタクシー					①運行の状況 ②懸念される事項 ③今後の再編検討
高等学校	町内外の町在住学生が在籍する高等学校					①通学・帰宅実態 ②問題点
スクールバス	新栄交通 教育委員会					①運行の状況 ②懸念される事項
福祉団体等	社会福祉協議会 福祉関係部署					①福祉有償運行の有無 ②病院送迎等の運行実態 ③ホテル無料送迎の実態
その他の特定目的	観光協会、ホテル運営事業者、企業等					①観光移動実態 ②ホテル無料送迎の実態 ③キャノン長崎の実態

2 町民アンケート調査及び高齢者アンケート調査結果

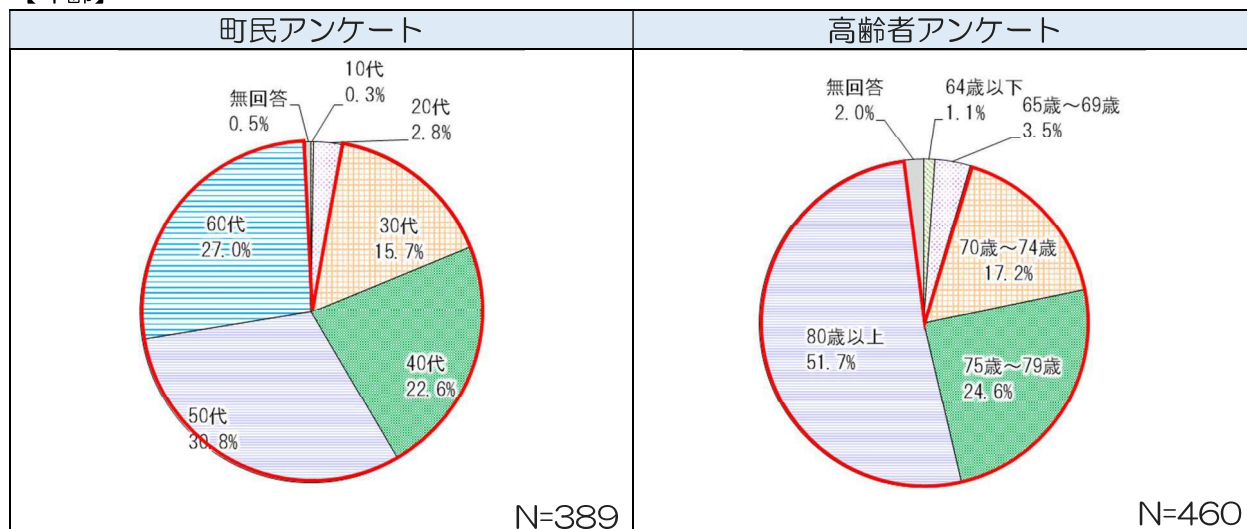
(1) 回答属性

町民アンケートでは 30 代～60 代の回答が多く、高齢者アンケートでは 70 歳以上の方が多くを占める。

【性別】

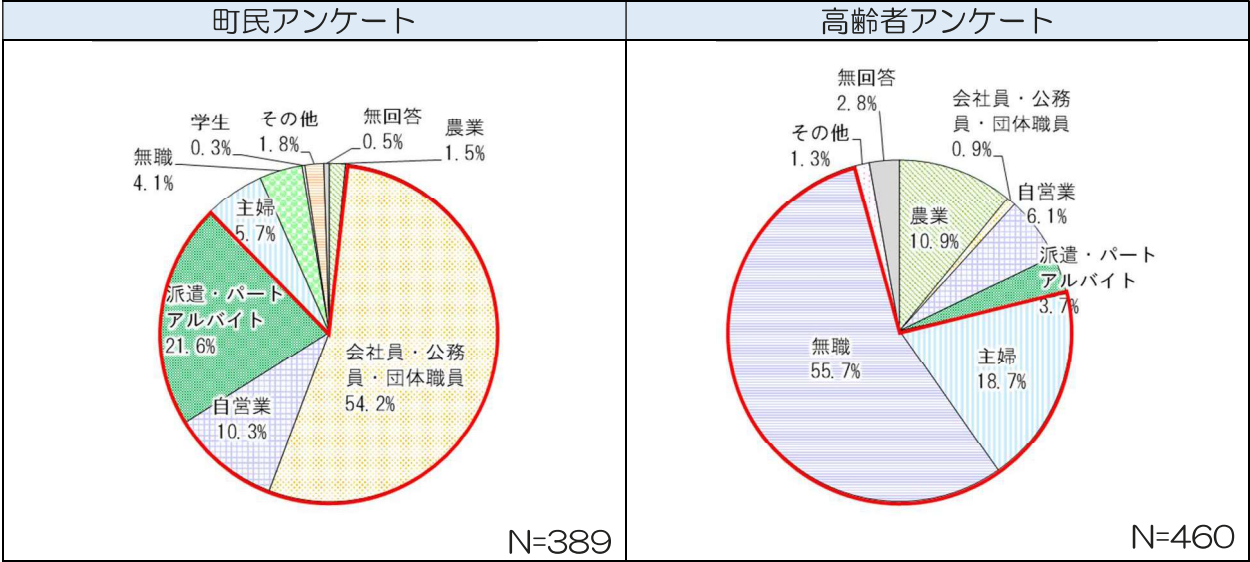


【年齢】

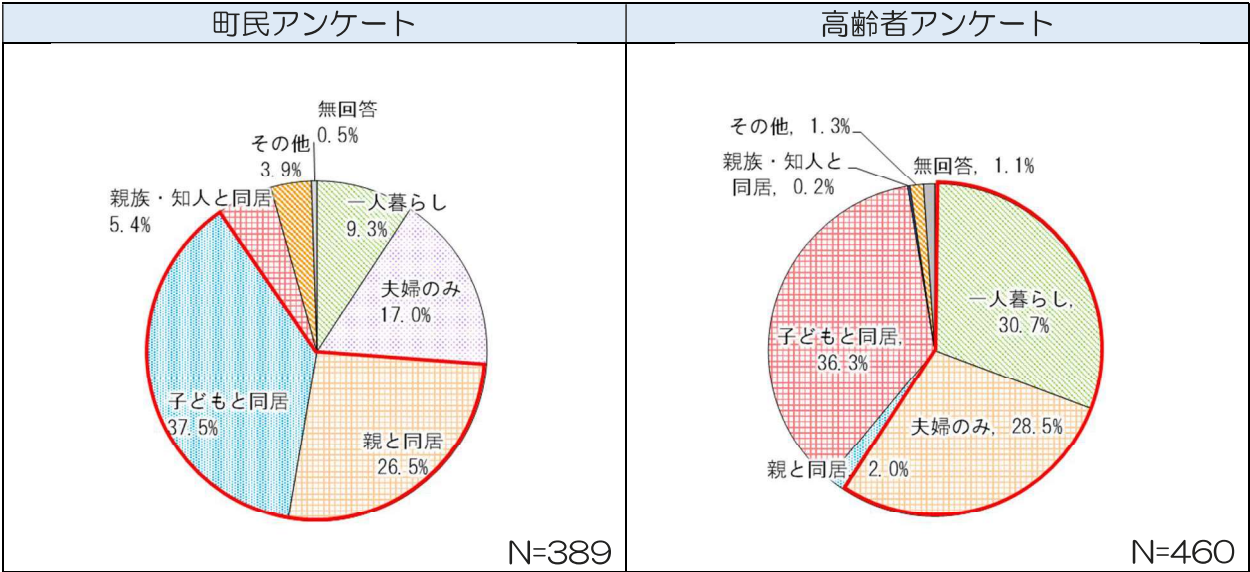


町民アンケートでは会社員等、派遣・パート等、自営業が多く、「親や子どもと同居」する方が多い。高齢者アンケートでは、主婦、無職が多く、「一人暮らし・夫婦のみ」が約 60% を占める。

【職業】



【家族構成】

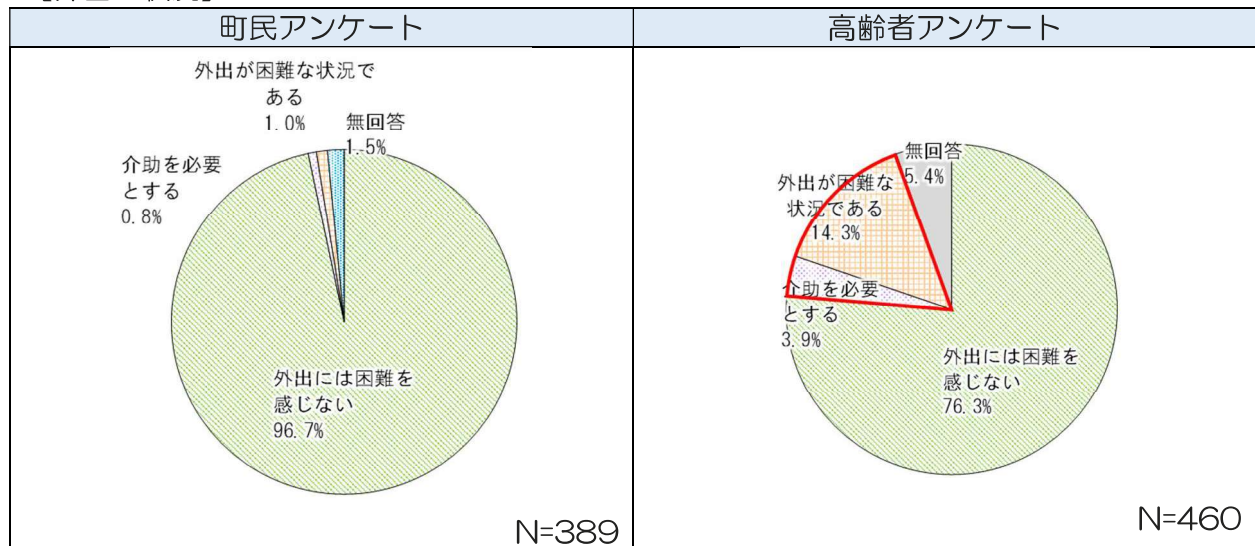


(2) 外出の状況・移動手段

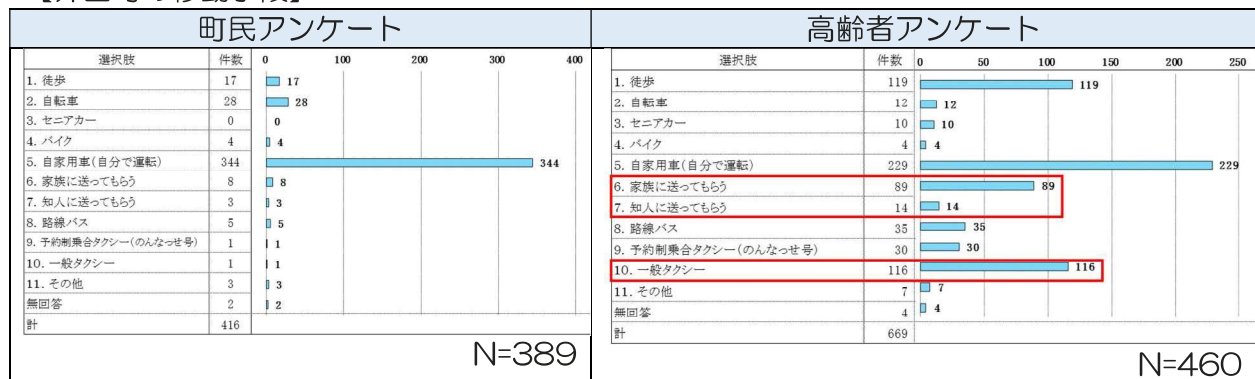
高齢者アンケートでは、外出時に介助を必要とする・困難な状況である方が約 20%を占める。

普段の移動手段は、町民アンケートではほとんどが自家用車であり、高齢者アンケートでは自家用車や徒歩の他、「家族・知人による送迎」、「一般タクシー」を利用する方が多い。

【外出の状況】



【外出時の移動手段】



(3) 所有する乗り物・免許返納意向

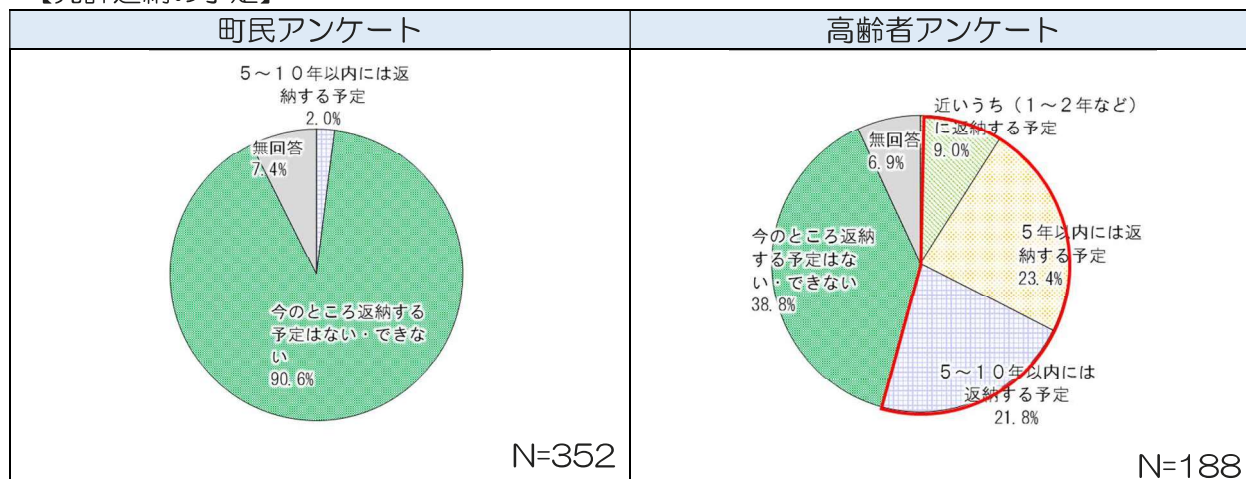
町民アンケートでは、多くの方が自家用車（マイカー）を所有し、免許返納予定のない方が約90%を占める。高齢者アンケートでは、自家用車の次に移動手段を持たない方が多く、10年以内に免許返納予定の方が約50%以上を占める。

両アンケートともに、免許返納により「自分自身の移動が難しくなる」ことに不安を感じている方が最も多い。次いで、「公共交通の料金などの経済的な負担の増加」、「家族の移動も困難」の回答も比較的多い。

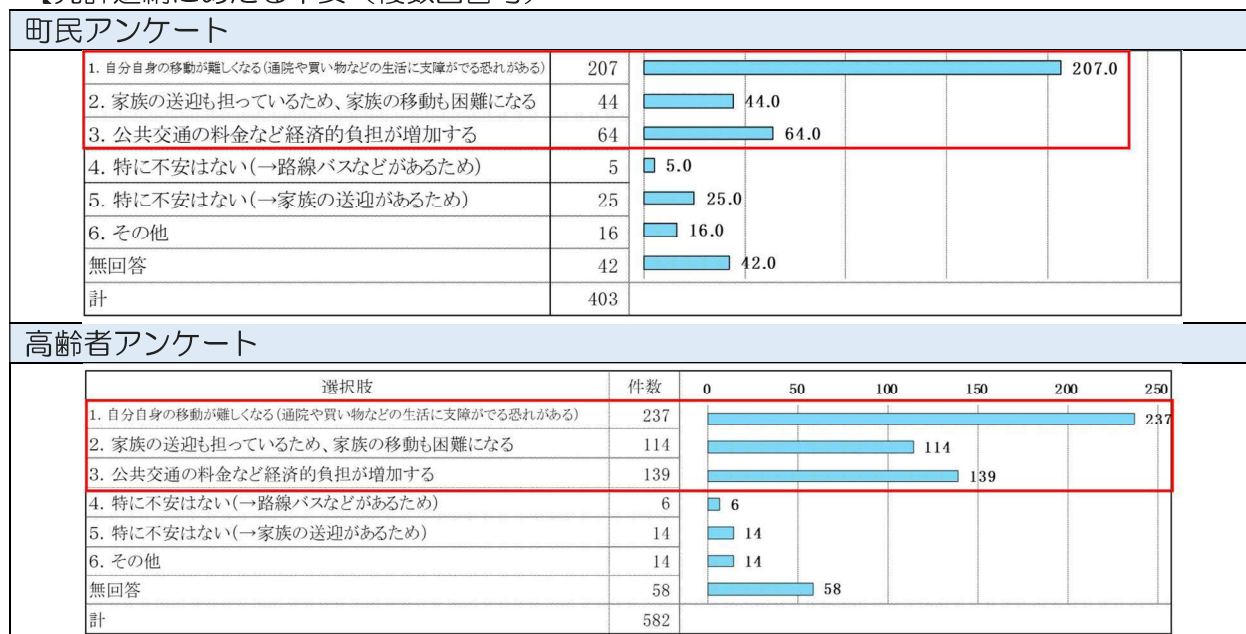
【所有している乗り物（複数回答可）】



【免許返納の予定】



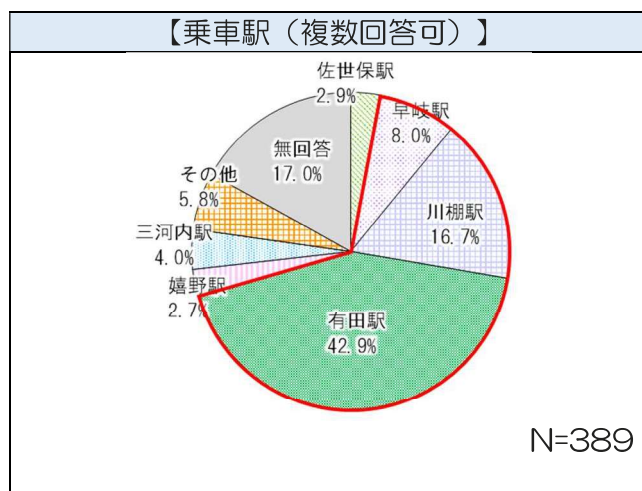
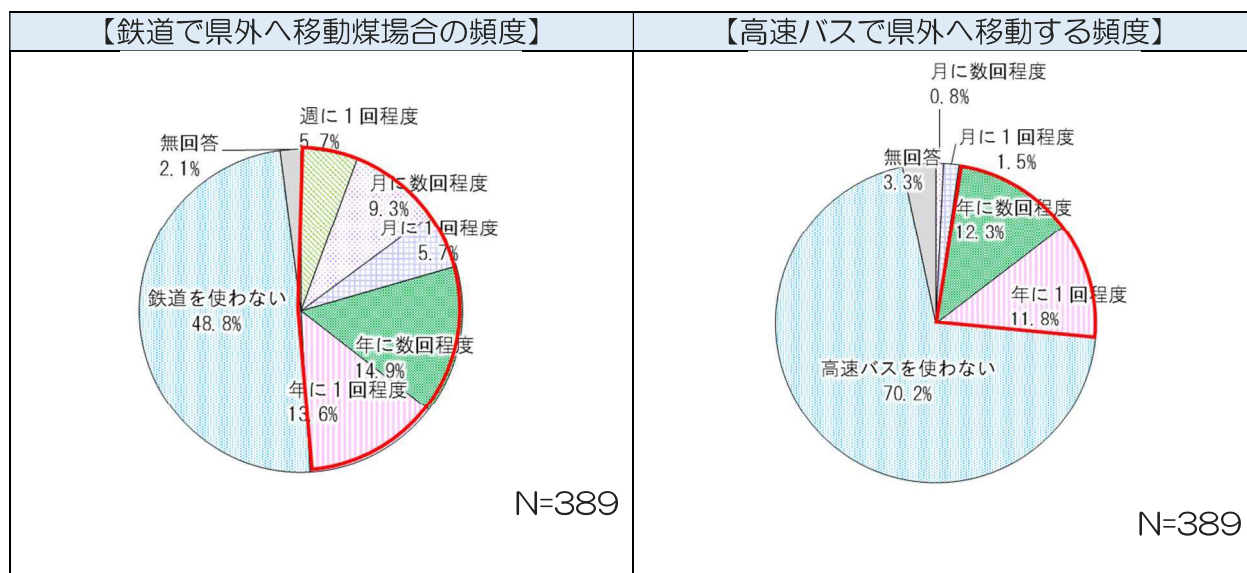
【免許返納にあたる不安（複数回答可）】



(4) 県外移動の頻度・乗車駅（町民アンケートのみ）

鉄道で県外へ移動する方が約 50%を占め、乗車駅は「有田駅」が最も多く、次いで「川棚駅」、「早岐駅」である。

高速バスによる県外移動は、年に 1 回程度・年に数回程度が約 20%であり、鉄道と比較して少ない。

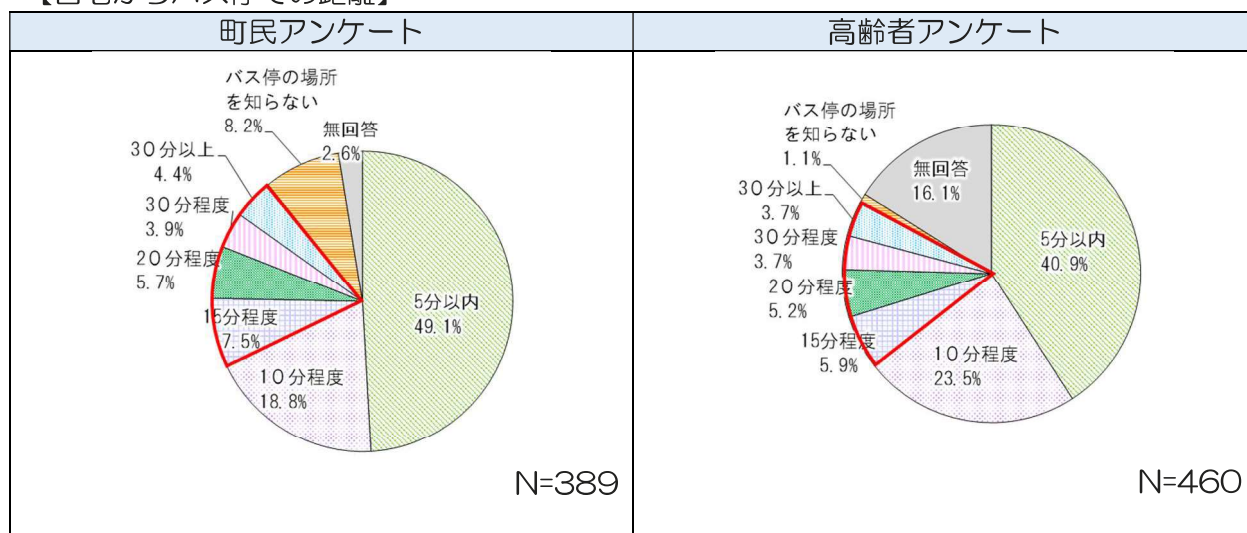


(5) 自宅からバス停までの距離・予約制乗合タクシーの認知度

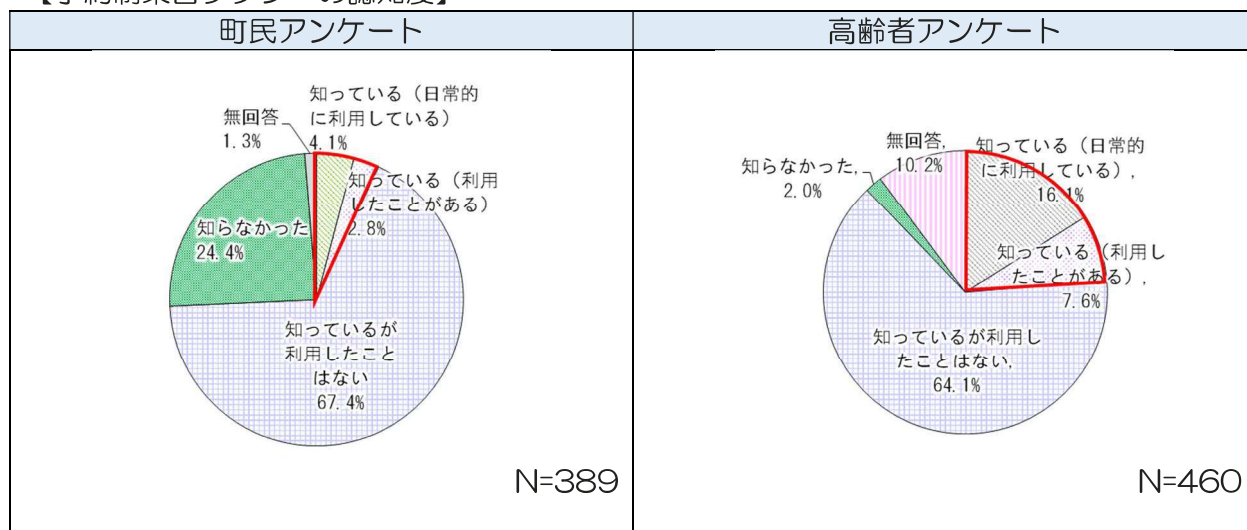
両アンケートでは、自宅からバス停までの距離が徒歩「15分」以上の方が約15%～20%を占める。

予約制乗合タクシーの認知度は、町民（19歳～65歳未満）より高齢者の認知度が高く、町民アンケートでは約7%、高齢者アンケートでは約24%が「利用したことがある」と回答している。

【自宅からバス停までの距離】



【予約制乗合タクシーの認知度】

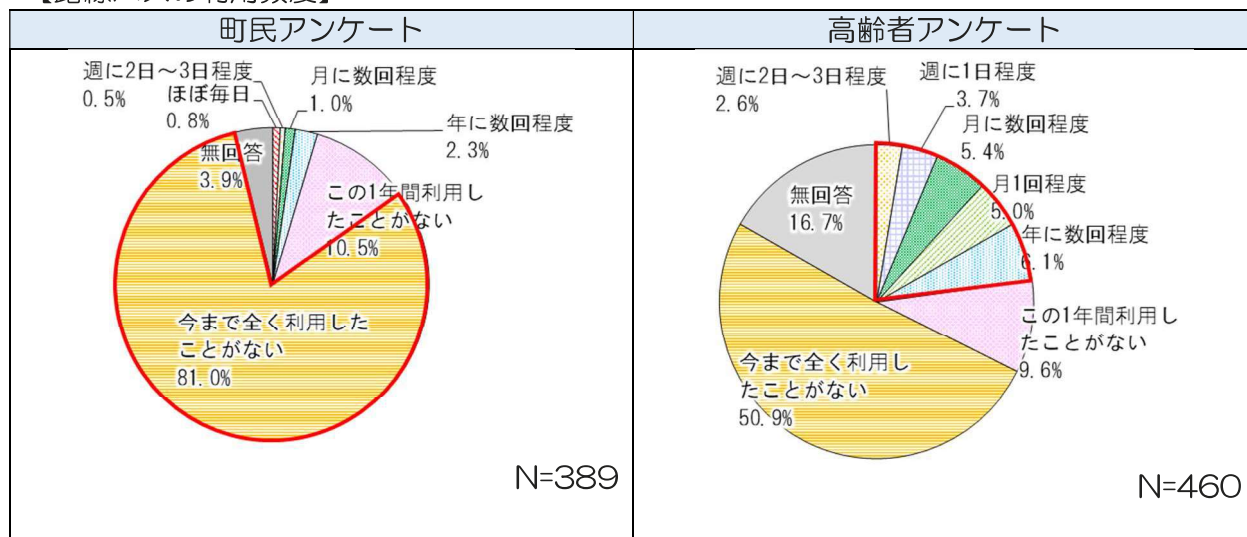


(6) 路線バス等の利用頻度・主な利用時間帯

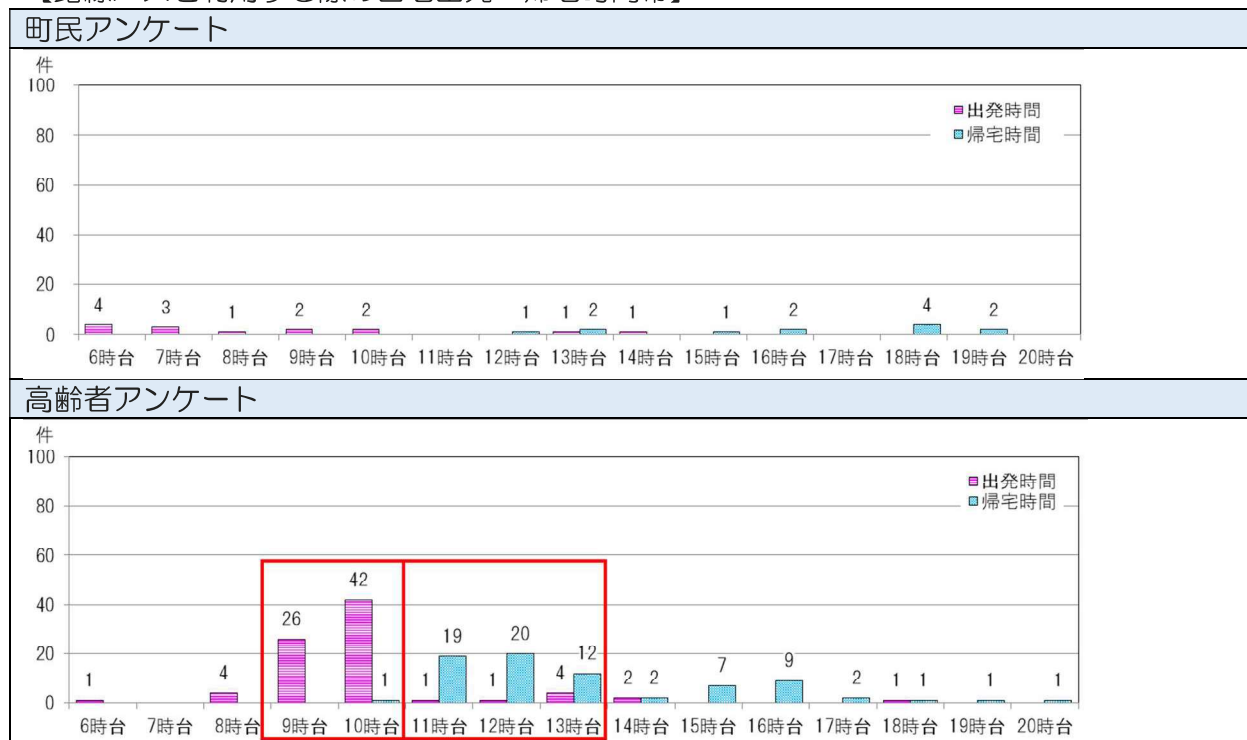
路線バスの利用頻度として、町民アンケートでは「全く利用したことがない」が約81%を占め、「年に数回」以上利用する方は約5%と少ない。

高齢者アンケートでは、「年に数回」以上利用する方が約20%を占め、朝9時台・10時台の便で出発し、11時台～13時台の便で帰宅する方が多い傾向にある。

【路線バスの利用頻度】



【路線バスを利用する際の自宅出発・帰宅時間帯】

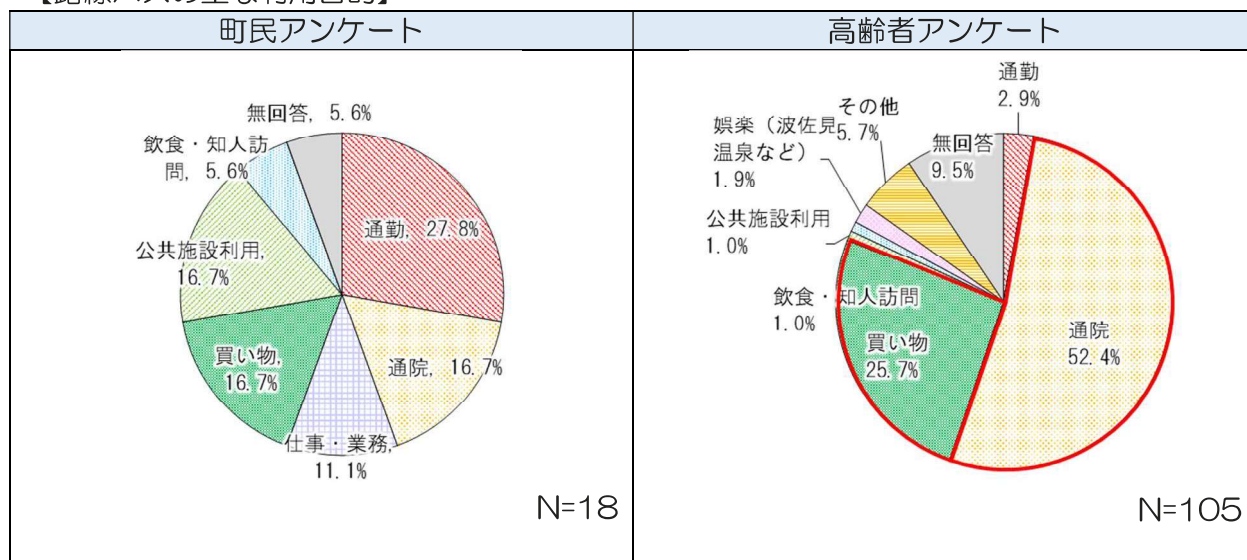


(7) 路線バス等の利用目的・主な目的地

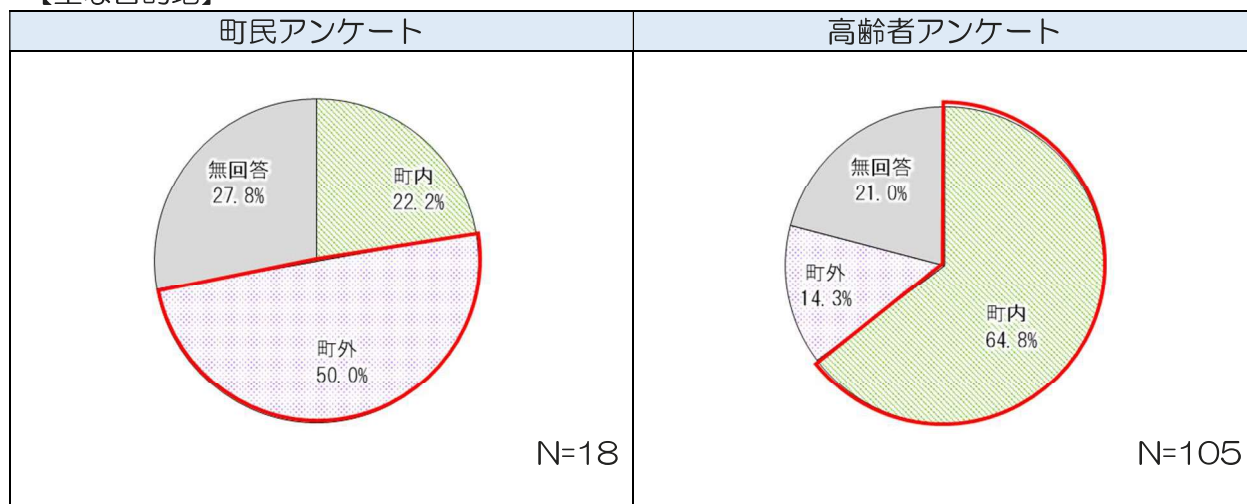
町民アンケートでは、路線バス等の利用する方自体が少ないものの、通勤、通院、買い物、公共施設利用など様々な目的で路線バス等を利用し、約50%が「町外」を目的地としている。

高齢者アンケートでは、「通院」目的の利用が約52%と最も多く、次いで「買い物」が約26%であり、約65%が「町内」を目的地としている。

【路線バスの主な利用目的】



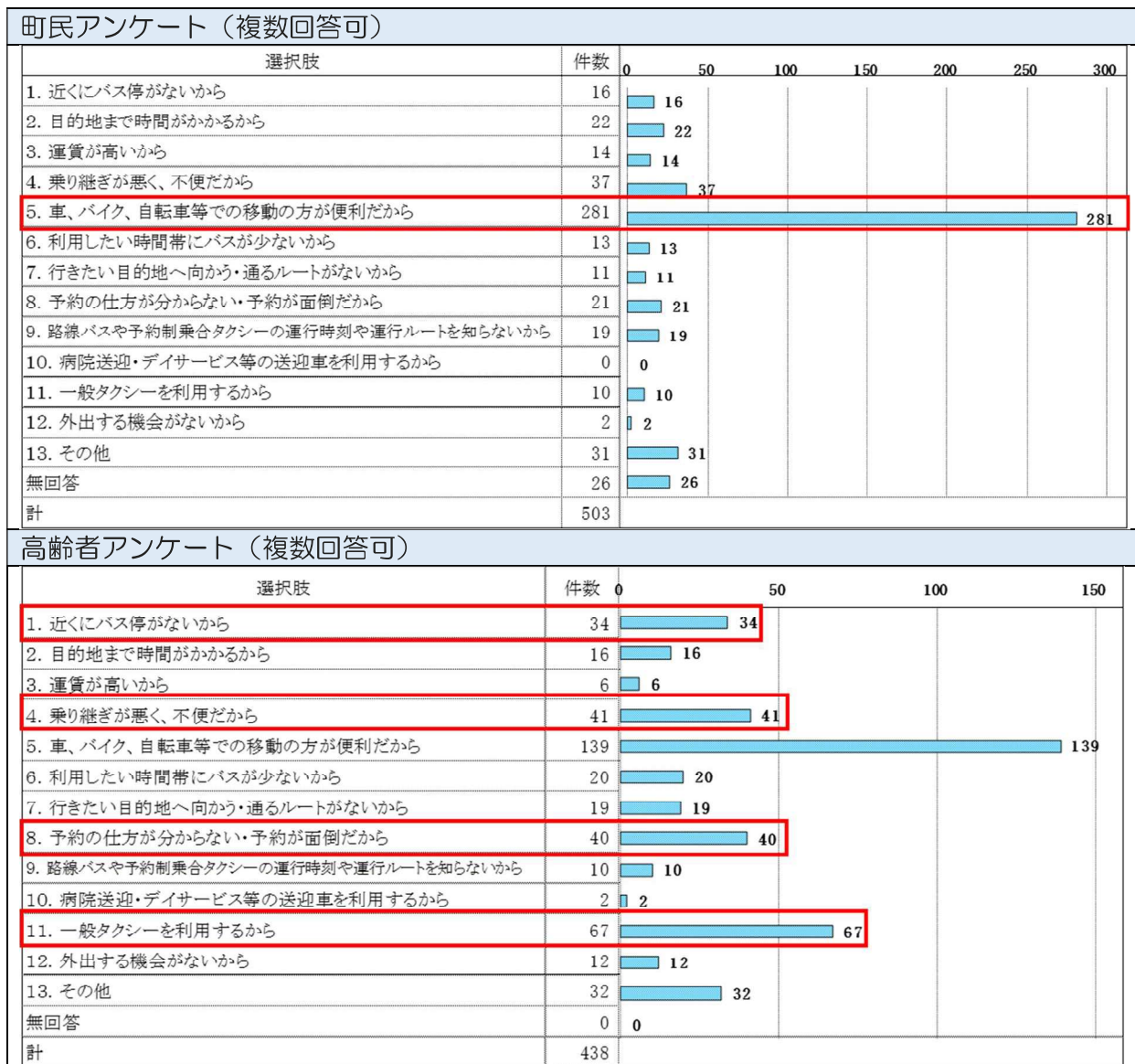
【主な目的地】



(9) 路線バスを利用しない理由

両アンケートともに、「車等での移動の方が便利だから」が最も多い。

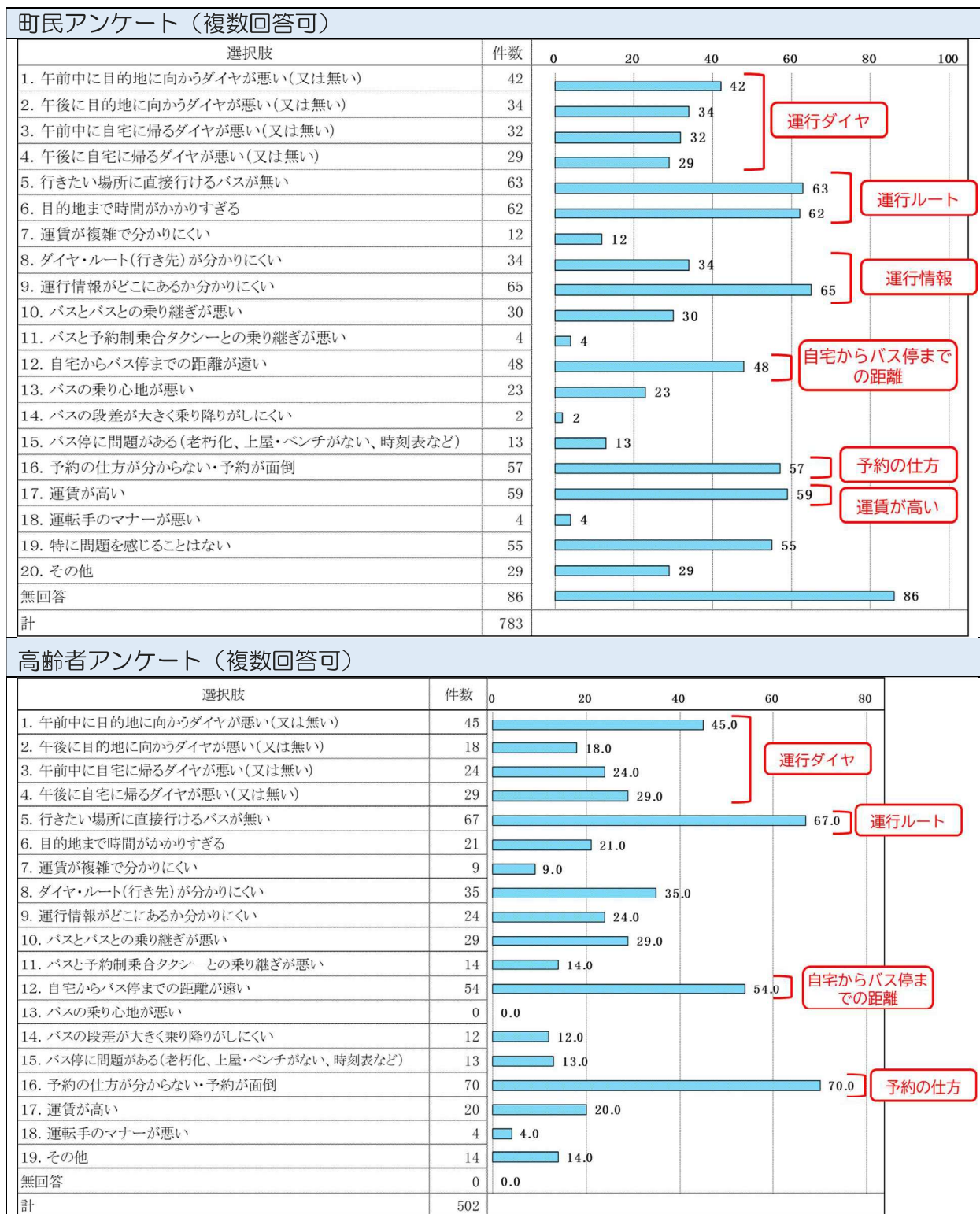
高齢者アンケートでは、「一般タクシーを利用するから」、「乗り継ぎが悪く不便」、「予約の仕方が分からない・面倒」、「近くにバス停がないから」という理由も比較的多い。



(10) 公共交通の問題点

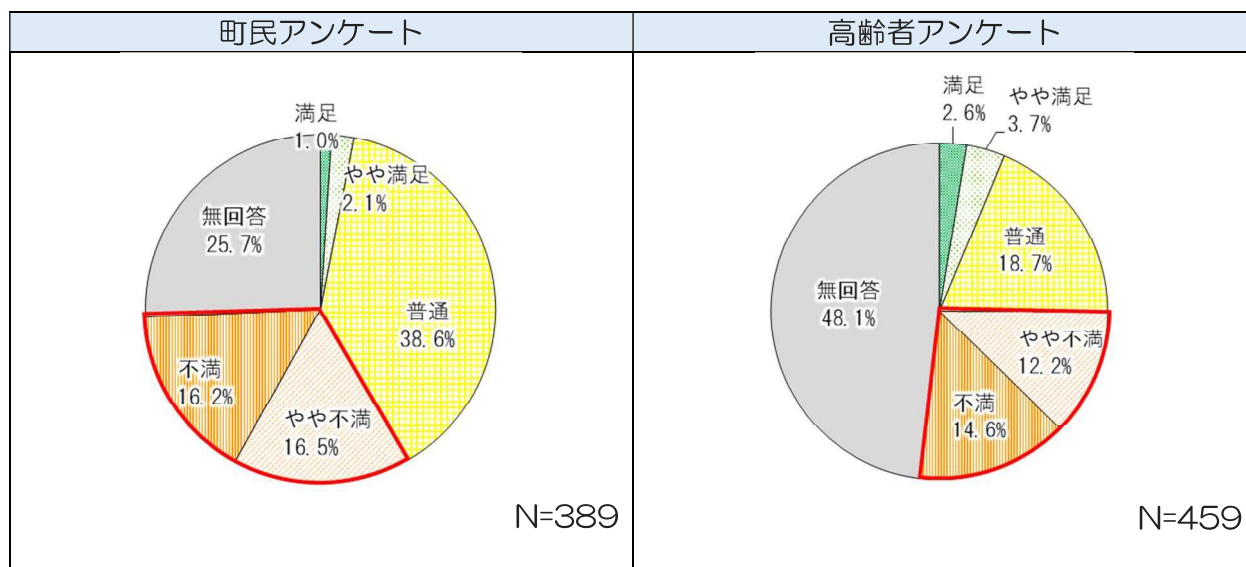
町民アンケートでは、「運行ダイヤ」、「運行ルート」、「運行情報」、「自宅からバス停までの距離」、「予約の仕方が分からない・面倒」、「運賃が高い」など、様々な問題点が挙げられる。

高齢者アンケートでは、「予約の仕方が分からない・面倒」が最も多く、次いで「運行ルート」、「自宅からバス停までの距離」、「運行ダイヤ」の順で回答が多い。



(11) 公共交通に対する満足度

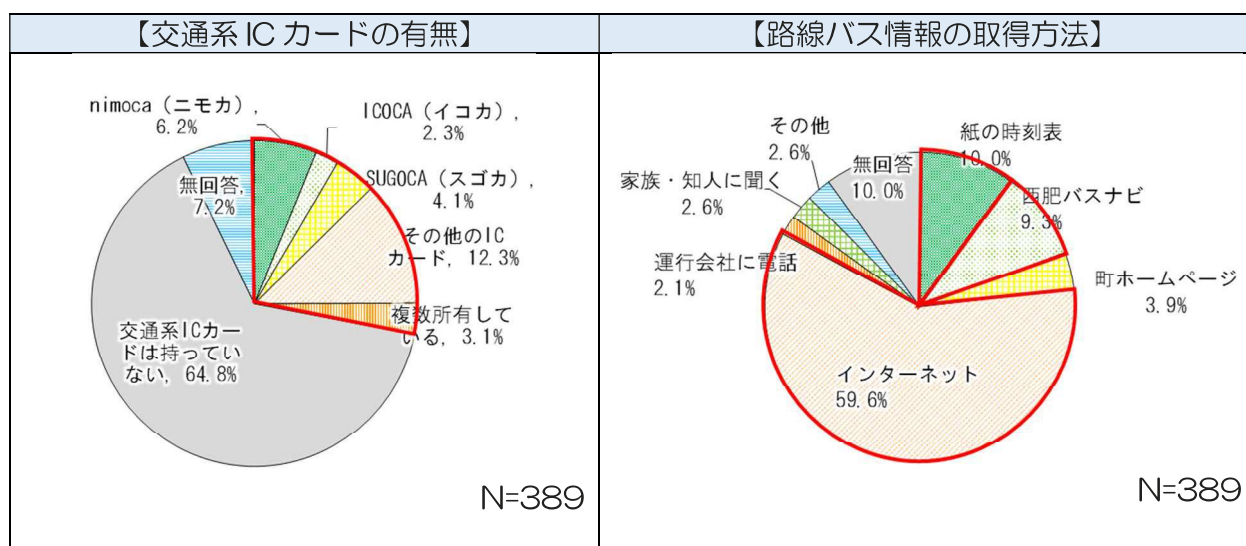
両アンケートともに、満足・やや満足の割合は低く、不満・やや不満の割合が高い。



(12) 交通系 IC カードの有無・情報の取得方法（町民アンケートのみ）

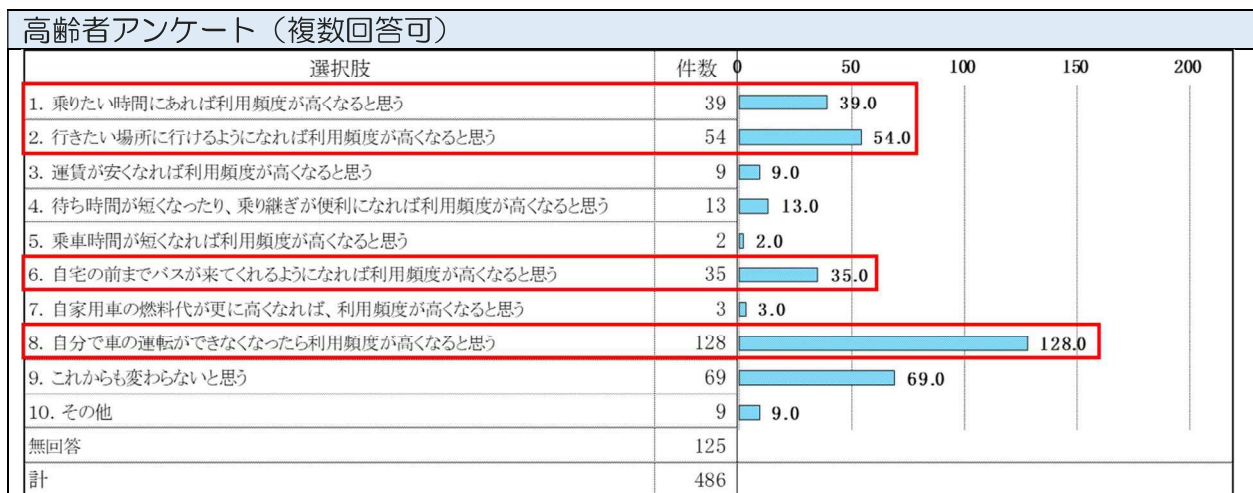
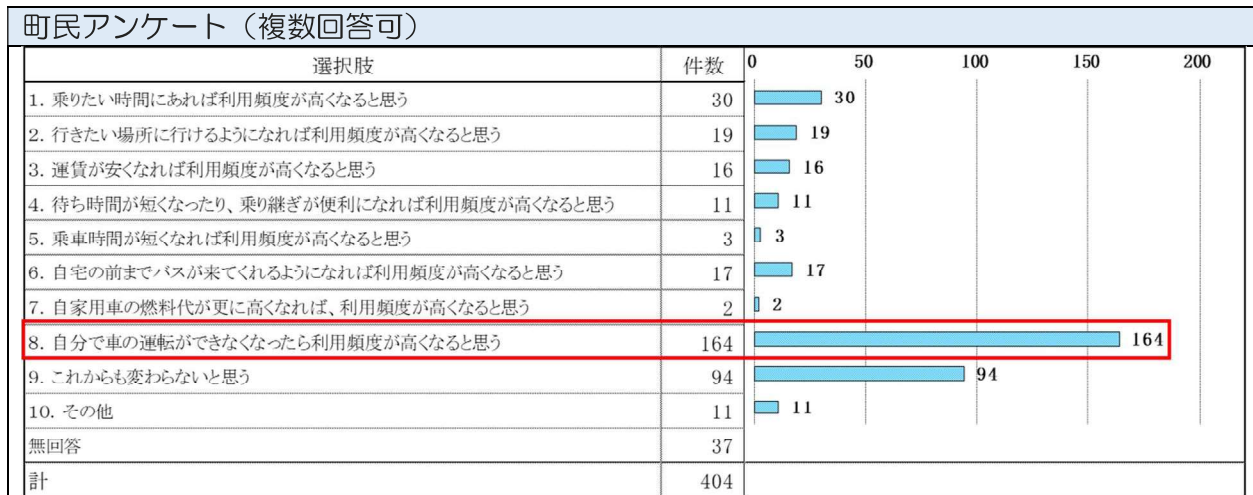
交通系 IC カードを持っていない方は約 65%を占め、保有している方は約 28%である。

路線バス等に関する情報の取得方法は、「インターネット」が最も多く約 60%、次いで「紙の時刻表」、「西肥バスナビ」となっている。



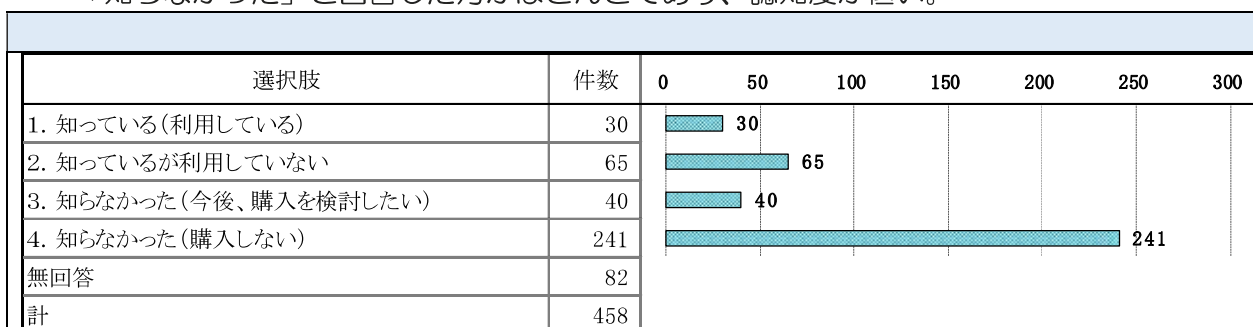
(13) 今後の利用頻度の変化

両アンケートともに、「自分で車が運転できなくなったら利用頻度が高くなる」が最も多い。また、高齢者アンケートでは、「行きたい場所に行けるようになれば」、「乗りたい時間にあれば」、「自宅の前までバスが来てくれるようになれば」利用頻度が高くなるといった回答も比較的多い。



(14) 高齢者割引定期券の認知度（高齢者アンケートのみ）

「知らなかった」と回答した方がほとんどであり、認知度が低い。



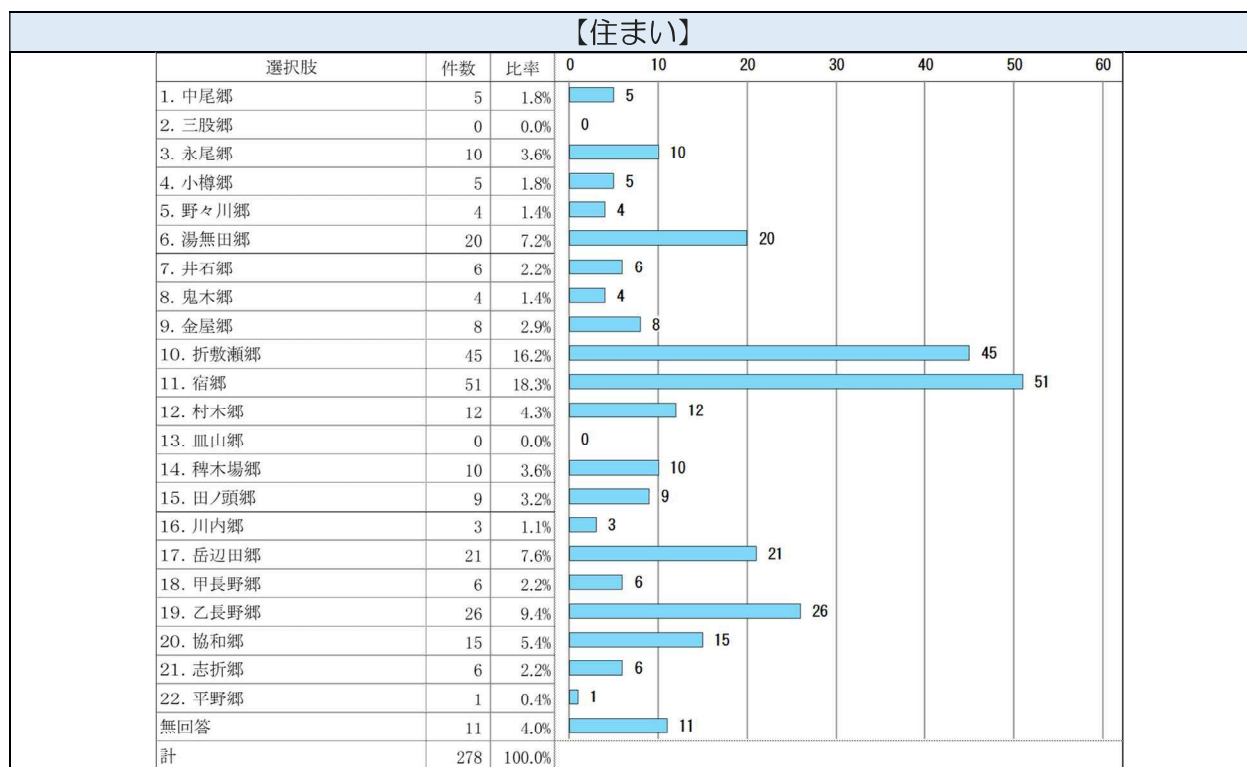
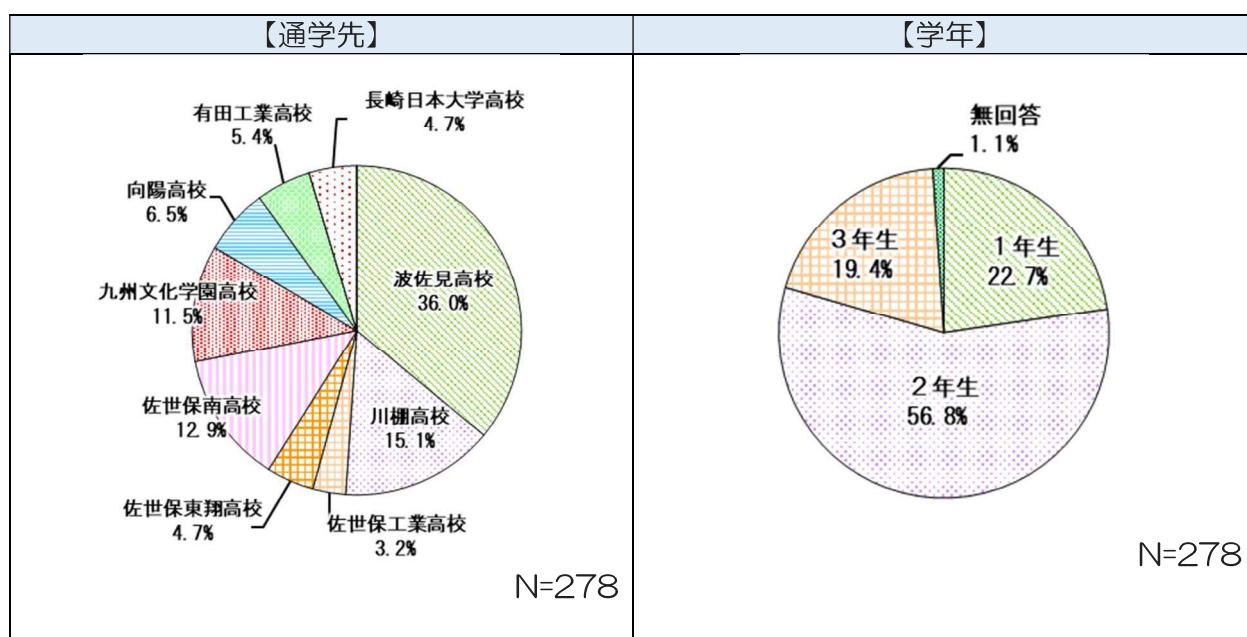
3 高校生アンケート調査結果

(1) 回答属性

町内の高校生の通学先は、波佐見高等学校が36%と最も多く、次いで川棚高校が15.1%と多い。その他、佐世保市や有田町等の町外の高等学校に通学している学生も存在する。

回答のうち2年生の回答が半数以上を占め、1年生及び3年生はそれぞれ20%前後を占める。

住まいは、「宿郷」、「折敷瀬郷」が多く、「三股郷」と「皿山郷」を除く各地区に居住している学生からの回答が得られた。

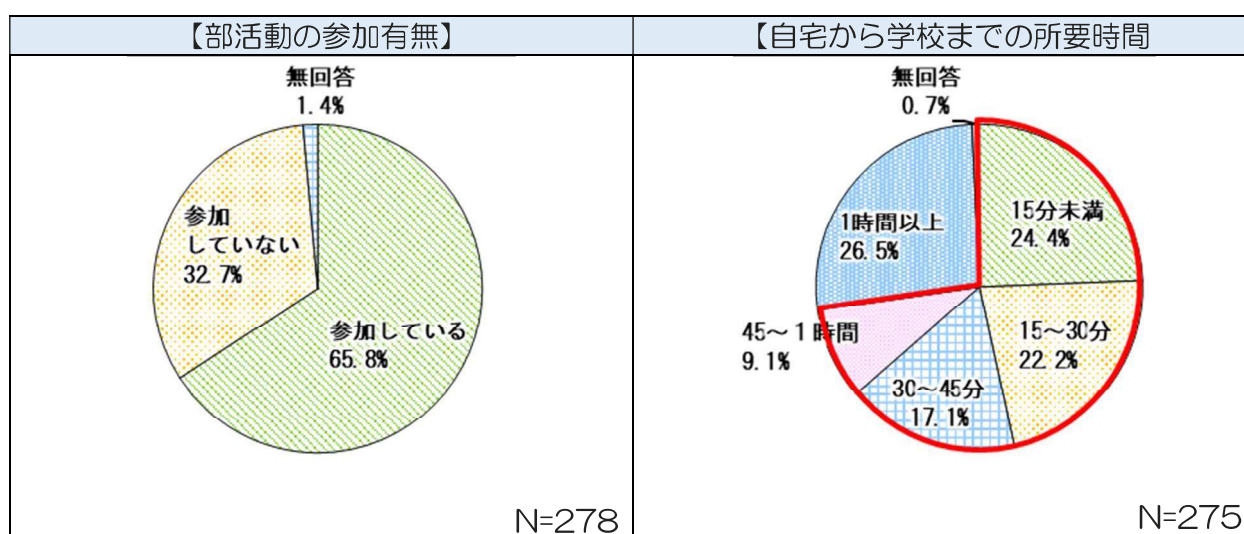
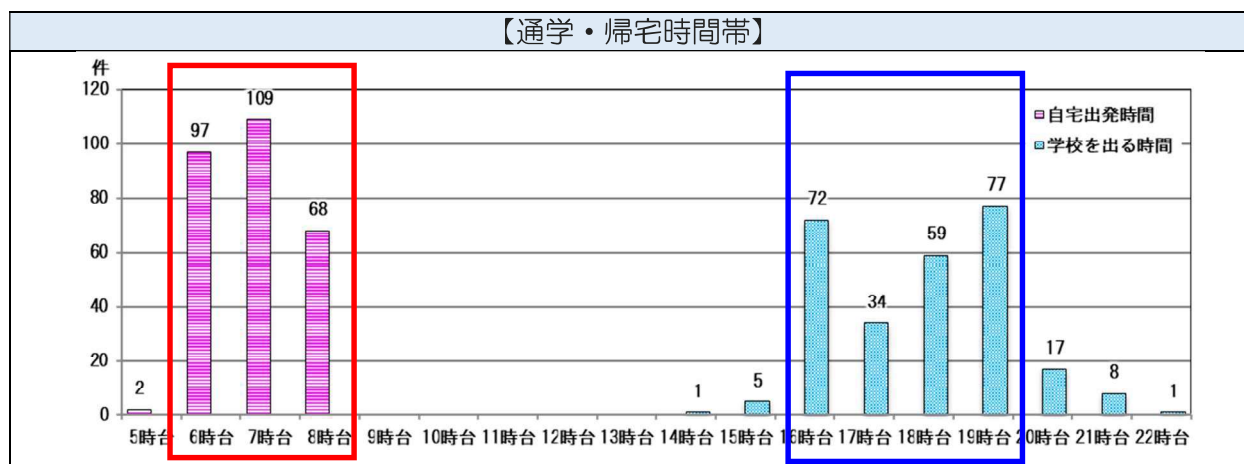


(2) 通学・帰宅時間帯、部活動の参加有無、通学所要時間

通学・帰宅時間帯は、朝 6 時台～8 時台に自宅を出発する学生が多く、帰宅時間帯は 16 時台～20 時台とばらつきがある。

部活動の参加有無は、「参加している」が約 66%と半数以上を占める。

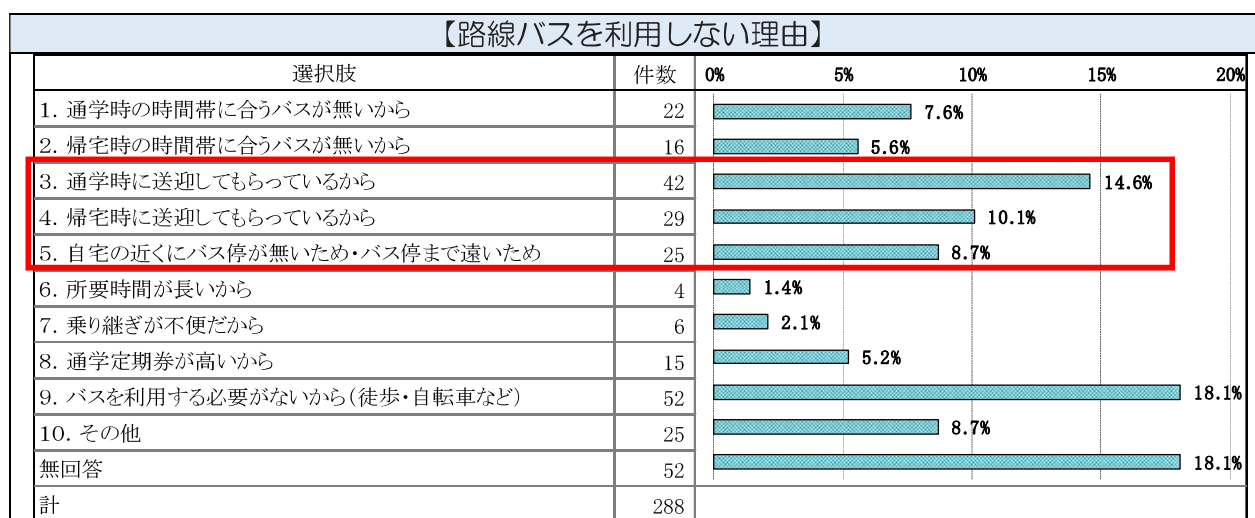
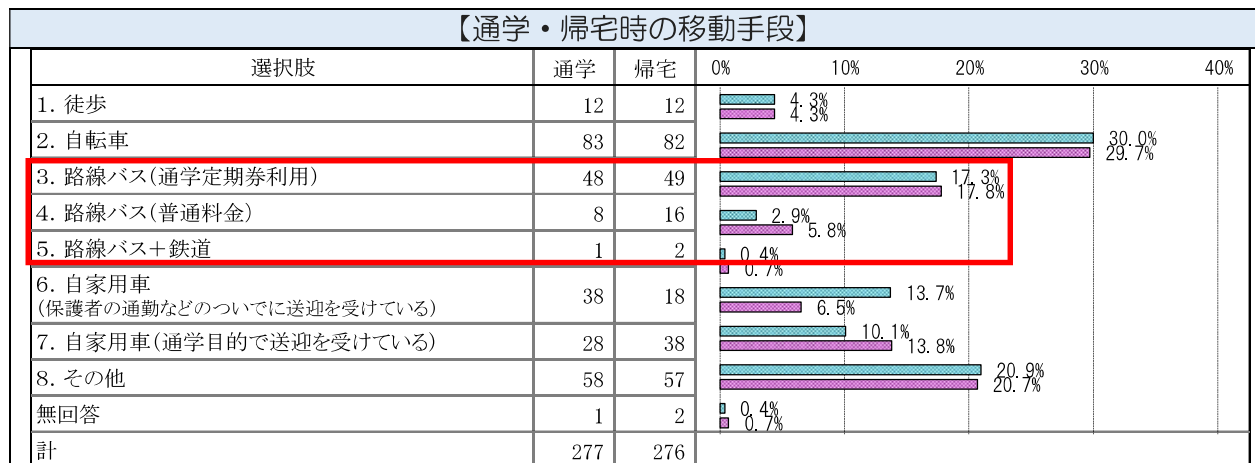
自宅から学校までの所要時間は、「1 時間以内」の学生が約 75%を占め、約 25%が「1 時間以上」である。



(3) 通学・帰宅時の移動手段、路線バスを利用しない理由

通学・帰宅時の移動手段は、「自転車」が最も多く、「路線バス」や「自家用車による送迎」も比較的多い傾向にある。

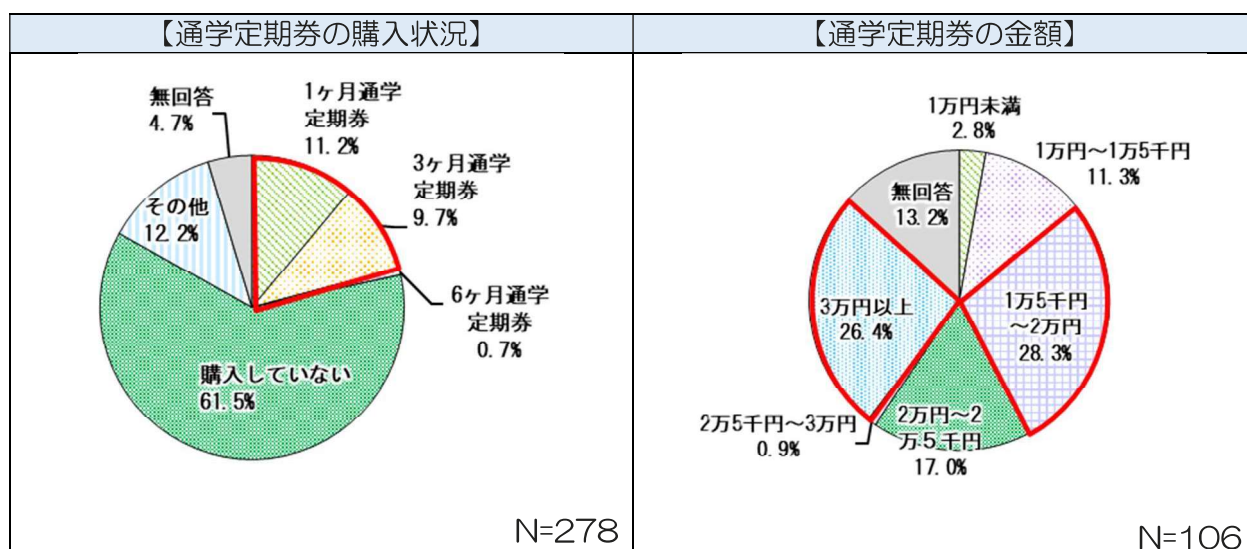
路線バスを利用しない理由は、「通学・帰宅時に送迎してもらっているから」、「自宅の近くにバス停が無い・遠いため」が合わせて30%を超える割合となっている。



(4) 通学定期券の購入状況・金額

通学定期券は、「1ヶ月定期券」が約11%を占め、「3ヶ月定期券」が約10%を占めている。約60%の学生が「購入していない」と回答している。

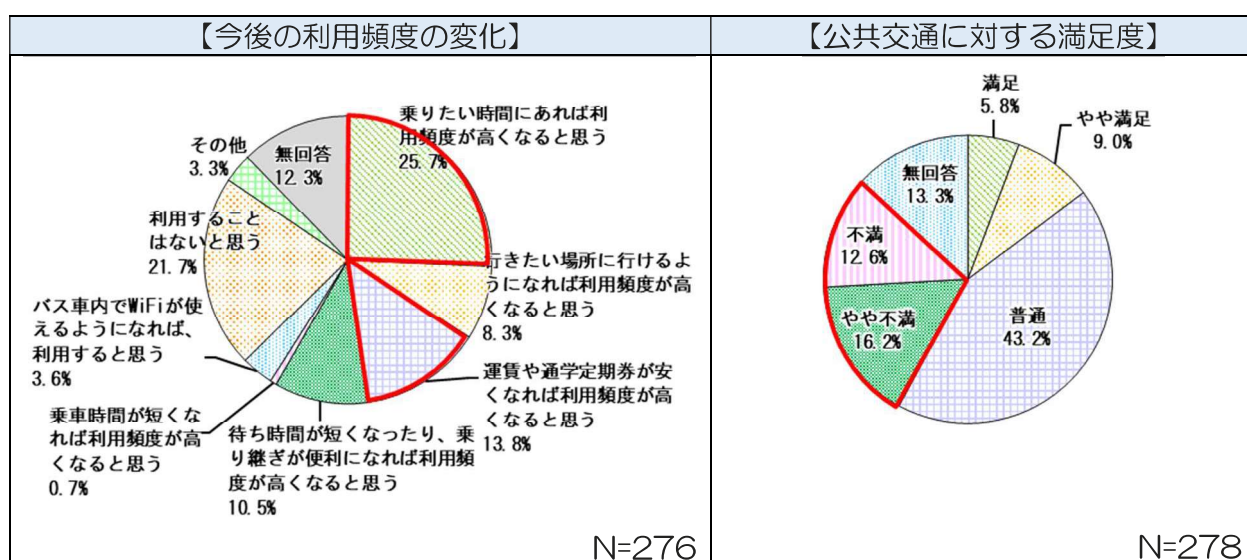
通学定期券保有者のうち、通学定期券の金額は、「3万円以上」が約26%と最も多く、次いで「1万円～1万5千円」、「2万円～2万5千円」となっている。



(5) 公共交通に対する今後の利用頻度の変化

今後の利用頻度の変化は、「乗りたい時間にあれば」が約26%と最も多く、次いで「運賃や通学定期券が安くなれば」、「待ち時間が短くなる・乗り継ぎが便利になれば」が比較的多い。

公共交通に対する満足度は、満足の割合より不満・やや不満の割合が高く約29%を占めている。



4 ヒアリング調査結果概要

公共交通の運行に係る事業者、町民の日常生活の主要目的地となっている施設管理者等を中心に、個別にヒアリング調査を行った。

区分	事業者	主な課題
バス事業者	西肥自動車	・路線バス利用者数が年々減少しているとともに、2024 年問題による労働環境の圧迫や深刻な運転士不足により路線の維持が困難な状況。 ・車両転回場・車庫・待機場所が遠く、回送距離が長い非効率な運行となっている。
予約制乗合タクシー	相互タクシー マユミタクシー	・予約制乗合タクシーの東地区と南地区で需要に差異があり、年交代で受託するにあたり、運行体制の確保が難しい（利用が多い地区の受託した年は、一般乗用事業や貸切事業への人・車両の手配を圧迫するため、需要を平準化した地区割としてほしい）。 ・利用者からは自宅まで送迎してほしいという声が多い。
高等学校	町内・外の町在住学生が在籍する高等学校	・部活動、テスト期間や夏休み期間など、変則時間割の際の帰宅時間帯に合った便がなく困っている。 ・佐世保方面の乗継箇所が便により異なり、乗継箇所によっては屋根やベンチがなく待合環境が悪い。 ・路線バスによる通学・帰宅を諦めて親の送迎が増えており、学校周辺の交通渋滞や騒音による近隣住民からのクレームを受けている。 ・時刻表が分かりにくいいため、先生自らが学生用の時刻表を毎年作成し、通学時間・帰宅時間に合った便を周知している。ただし、路線バスの慢性的な遅延により乗り継ぎできない場合もある。
スクールバス	新栄交通 教育委員会	・現在の貸切運行での委託の場合、スクールバス送迎専用の運転士を確保する必要があり、日中の時間帯も運転士が拘束され、他の運行シフトと組み合わせた柔軟なシフトを組むことができない。 ・学校統廃合の経緯や保護者からの要請により、地区ごとにスクールバスのサービス提供水準が異なり、統制が取れず複雑化（運賃無料、運賃応分負担、車両サイズがバス・タクシーなど）している。
福祉団体等	社会福祉協議会 福祉関係部署	・社会福祉協議会として、高齢者の健康・福祉に関わるサービスを提供しており、高齢者の移動に関わるサービスとの関連性は高いため、公共交通と連携することが求められる。
その他の特定目的	観光協会、ホテル運営事業者、企業等	・宿泊者に対する無料送迎サービスを提供しており、片道 30 分圏内であればどこへでも送迎対応しているが、負担が大きく、公共交通などで移動手段が確保されるとありがたい。（ホテル） ・社員の多くは自家用車通勤であるが、毎年一定期間で特殊技術者十数名が派遣されてくるため通勤・帰宅用の貸切バスを委託している。路線バスが乗り入れ、従業員の通勤・帰宅手段の選択肢が増えるようであればありがたい。（事業所）